

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691300036		
法人名	社会福祉法人丹生谷会		
事業所名	グループホーム水の花		
所在地	徳島県那賀郡那賀町延野字大原40番地1		
自己評価作成日	令和4年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は全て県内産の木を使った木造建築であり、木の温もりを感じながら生活できるようになっている。落ち着いた文教・住宅地区の中にあるということもあり、新型コロナが蔓延するまでは近隣小学校の行事への見学参加や、事業所内の大きな行事には家族、近隣住民の方が来所してくださり地域交流も盛んに行っていた。新型コロナが収束すれば再開する予定である。食事は併設している特養栄養士が栄養バランスを考慮し、季節感・郷土色に彩られたメニューも取り入れている。利用者の体調不良時も、特養看護師に相談し、適切な助言をいただいている。利用者の方には規則正しく、日々楽しみを持ちながら生活していただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に小・中学校や住宅地が立ち並び、山や川に囲まれた自然豊かな環境のなかに位置している。同一法人の運営する他サービス施設が併設し、医療や災害時等の協力体制を整備している。事業所内に、リフト浴槽を設置するなど、利用者の高齢化・重度化にあわせたサービスの提供に努めている。新型コロナウィルス感染症の流行下にあっても、隣接する小学校の行事を見学するなどして、地域交流の継続に努めている。事業所内でのレクリエーションの内容を工夫したり、おやつづくり等で利用者の役割を設けたりして、家庭的な環境のなかで、毎日の生活を楽しむことができるよう支援している。協力医療機関とは、24時間連絡可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成してスタッフルームに掲示している。毎朝の申し送り時に唱和し、職員は理念に沿った支援ができるよう努めている。	事業所は、開設当初に作成した事業所独自の理念を大切にしている。理念は、スタッフルームに掲示したり、毎朝の申し送りで唱和したりして、共有化を図っている。新人職員には、オリエンテーションで理念について説明し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが蔓延する前までは、近隣小学校の行事に参加したり、敬老会や、水の花荘まつりには地域住民の方を招待して交流していた。新型コロナが収束すれば再開する予定である。	事業所では、近隣の散歩の際に地域住民と挨拶を交わすなどして、交流している。隣接する小学校の行事は、フェンス越しで見学している。マラソン大会では、応援するなど、つきあいを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成協力事業所に登録しており、研修や勉強会で学んだことや、日々の認知症介護での経験で得た知識を利用者、地域住民の方等に向けて活かすように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染が拡大している時は、各委員、利用者家族に資料を配布して意見を求め、感染が落ち着いている時は会議を開催して意見を求め、サービス向上に務めている。	定期的に運営推進会議を開催している。感染症(コロナ等)の流行下においては、事業所の活動内容をまとめた資料を郵送したり、直接手渡したりして、各委員に報告しているが、事業所の取り組み等について意見を得るまでには至っていない。	会議は、事業所の報告にとどまらず、活発な意見交換の場となることが望まれる。資料の記載方法を見直したり、各委員に働きかけたりするなどして、意見を得ることで、サービスの質の向上に繋がることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員の方も運営推進会議メンバーであり、情報交換や意見をいただいている。また場合によっては役場や地域包括支援センターへ出向いたり、電話でやり取りするなどして協力関係を築いている。	管理者は、定期的に、町担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所の状況を報告し、助言を得ている。感染症の流行下においては、電話を活用し、相談を行うなどして、情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外へ出て行きそうな時は止めるのではなく、声掛けしたり、荘内外と一緒に散歩するなどしている。令和3年度は拘束防止委員会を5回、拘束廃止についての施設内研修を4回実施した。	事業所では、年4回、身体拘束に関する研修を開催している。研修は、毎回テーマを変えて開催し、事例検討等を行っている。管理者は、法人の拘束防止委員会に参加している。内容を職員間で共有することで、全職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を令和3年度は4回実施し、虐待防止の徹底を図っている。また新規職員採用時にも虐待防止についての研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会等に参加して制度について理解し、必要とされる利用者や家族の相談に応じ、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や料金改定時に契約書、重要事項説明書の説明を十分に行い、理解していただけるように努めている。また不安や疑問がある場合は、面会時、電話等で伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常生活の中で、家族には面会時や電話で利用者の状態を伝えており、その際に意見や要望を聞くようにしている。	事業所では、感染対策を講じて、家族等の来訪を受け入れ、意見や要望を聞きとっている。定期的な手紙や電話連絡の際に、意見等を聞く機会を設けている。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する運営委員会やグループ会議の中で職員の意見や提案を聞く機会があり、運営に反映させている。また、普段でも職員から意見や提案があれば聞くようにしている。	管理者は、日ごろから職員の意見や提案を聞いている。朝夕の申し送りの際やグループ会議でも意見等を聞く機会を設けている。出された意見等は、職員間で話しあったり、法人の運営委員会で提案したりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがやりがいや向上心を持って働けるように職場の環境整備に努めている。介護福祉士等資格を取得すれば手当が出る制度もある。また福利厚生として「あわーず徳島」に加入し、利用していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんなテーマで施設内研修を行っており、研修担当者も持ち回り制にして発表するようにしている。また施設外研修もできるだけ多くの職員が受講できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大以降は、会議・研修等の殆どがWebでの開催にかわってしまったが、その中で参加時に意見交換し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と会い、話をする機会を設けている。また可能であれば、できるだけ施設を見学していただいて不安を無くし、安心して施設生活をさせていただけるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には家族、場合によればケアマネ等と話し合いの場を設け、家族が不安に思っていることや要望を把握し、本人が安心して生活できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているかを把握できるように努め、事業所としてできる限りの対応ができるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずにお互いが共同しながら、和やかな生活が送れるよう心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを家族に伝えることで、事業所と家族が共に利用者を支える環境を作るように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの蔓延で近隣地域行事への参加、自宅・実家近くへのドライブ等はできていないが、知人・家族等が施設へ訪ねて来られ、ビニール越し・窓越し面会していただく機会を設けている。	事業所では、感染対策を講じて、利用者の知人等の来訪を受け入れている。また、近隣にドライブに出かけ、紅葉を楽しむなど、馴染みの場所との関係継続にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中で利用者を観察し、利用者同士で良い関係が保てるような環境作りに努めている。食事する席も楽しく食事できるように配席している。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も利用者や家族とのこれまでの関係性を大切に、その後の相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、その方らしい生活が送れるように心掛けている。本人の要望を聞き、実現が可能なことに対しては対応している。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、家族等から生活歴や思いを聞くなどして支援に努めているが、管理者は、利用者本人から情報を得ることを検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴や馴染みのある暮らし方を聞き取り、情報収集に努めている。また本人の希望や要望に耳を傾け自分らしく過ごしていただけるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作を観察し、職員間で情報を共有するようにしている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望や要望を聞き取って職員間で話し合い、それらを反映した介護計画を作成するように努めている。	事業所では、利用者や家族の意向、医師の意見等をもとに、職員間で話しあい、介護計画を作成している。ケース記録等から実践状況をモニタリングし、見直しを行っている。見直しの際にも、家族等の意見を確認するなど、思いを大切に介護計画の作成に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフト内に一人ひとりのバイタル、食事・水分摂取量、入浴、排泄等の記録。またケース記録として日々の暮らしぶりを記入し、全職員で共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内他事業所の管理者、介護士、看護師、ケアマネ、栄養士等、時には町や地域包括支援センターと情報交換を行い、利用者や家族のニーズに対応できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、各種会議、研修等を通じて町、地域包括支援センター、民生委員等と情報交換を行いながら支援するように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関医師に定期的に往診していただいている。緊急の場合は受診介助もやっている。またかかりつけ医や本人・家族希望の医療機関への受診は家族へ依頼し、受診できるようにしている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診は、家族等の協力を得ている。2か月に1回、協力医の往診がある。希望に応じて、週1回歯科の往診を受け入れている。また、夜間や緊急時にも連絡可能な体制を整え、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護職員はおらず、日々の介護の中で不安に思ったことや、体調不良者等が出た場合には、併設している特養看護師に相談して助言していただくようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は基本協力医療機関となるが、本人、家族が希望すれば他の医療機関への入院もできるよう対応している。また退院後も問題なく施設生活ができるよう、医療機関から情報をいただいている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に沿って、職員、本人、家族等と十分に話し合い、支援できるように努めている。	事業所では、重度化や終末期における指針を作成している。入居時の段階で利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認している。関係者間で情報の共有化を図り、意向に添うことができるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で急変時や事故発生時の対応方法について研修を行っている。また施設外研修へも参加できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、大規模地震、土砂災害を想定した避難訓練を計年4回行っている(昼・夜間想定)。地元消防団の方にも参加していただいている。	年4回、地域の消防団の協力を得て、利用者とともに、火災や地震、土砂災害を想定した避難訓練を実施している。併設施設との協力体制を整備しているが、地域住民等の協力等を得るまでには至っていない。	今後は、身近で発生する災害を想定し、地域住民へ協力を呼びかけるなど、利用者がより安全に避難できる体制を整えることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループ会議、朝夕の申し送り等で周辺症状等のいろんな事案を検討し、一人ひとりが楽しく快適に生活できる環境を整え、人格を傷つけずプライバシーの保護に努めている。	職員は、朝夕の申し送りやグループ会議等で話しあい、利用者一人ひとりの尊重やプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、叶えられる範囲で要望に応えている。また自己決定がしづらい利用者は、家族から意見を聞くようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課の中で一人ひとりの体調の変化や、得意・不得意を考えて自分らしい生活が送れるように職員が観察しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意思で決めている。自己決定が難しい方は、好みに合わせて職員が寄り添い本人の意思に沿った支援ができるよう心掛けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、その結果をメニューに反映させている。また季節感や郷土色に彩られた食材も取り入れている。利用者には食卓拭きや下膳等のお手伝いをさせていただいている。	事業所では、年1回、嗜好調査を行い、利用者の好みを献立に反映している。季節の食材や郷土料理を取り入れたり、おやつづくりを行ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。利用者には、準備や片づけ等、できることで役割を担ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成による栄養バランスのとれたメニューとなっている。また一人ひとり一日の水分摂取量をパソコンソフトに記録しており、全職員が共有できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後の歯磨きを徹底している。夜間は義歯を外して洗浄液に浸けている。自身で口腔ケアが難しい方は、職員がお手伝いさせていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録や習慣から排泄時間を把握できるようにしている。排泄時間のパターンを掴み、なるべく失禁が少なくなるようにトイレ誘導している。	職員は、排泄記録から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。車イスを使用する利用者にもトイレで排泄できるよう支援している。夜間も、排泄パターンにあわせて誘導するなど、できる限りトイレで排泄できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康体操やレクリエーション等、身体を動かす機会を設けている。また牛乳の飲用や乳製品を摂取していただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の体調や気分に合わせて入浴していただき、嫌がる時は無理強いしないように努めている。また菖蒲・柚子湯等季節に合わせた入浴もできるようにしている。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるように支援している。浴室にはリフトを設置し、重度化した利用者も、安全に湯船につかることができるようにしている。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯を行い、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操やレクリエーション、作業等で体を動かすことにより、夜入眠しやすくなるように努めている。また昼間休息したい時には、各部屋にあるソファやベッドで過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が、いつ何の薬を服用するのかが分かるように一覧表とファイルにまとめてあり、誰でもが直ぐに閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を聞き取り、その方らしい生活ができるように心掛けている。簡単な作業や食事時のお手伝い等、日々の生活に張り合いが出るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナが蔓延するまでは、近隣ドライブ、遠足、小学校行事の見学等の支援をしていた。今年も紅葉が見頃となれば少人数で出かける予定である。行きつけの病院受診については、家族の協力を得て行っている。	事業所では、気候の良い日に近隣の散歩に出かけている。敷地内で小学校の行事の見学を行うなど、気分転換する機会を設けている。感染症の状況に応じて、少人数で花見や紅葉狩り、美術館に出かけるなど、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足等外出時に買い物をする時は、その都度家族に連絡し、お小遣い程度のお金を持って来ていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族・知人の方に電話や手紙で連絡が取れるようにしている。家族等からかかってくる電話にも柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるように座席の配置を考え、不快や混乱を招くことがないよう支援している。また温度、湿度管理には十分気を付けている。ホールには季節感が味わえるような飾りつけも行っている。	共用空間は、明るく、広々としている。壁面には、季節に応じた飾り付けを行ったり、利用者の生けた季節の花を飾ったりして、季節を感じるができるよう工夫している。空調管理を行い、過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソーシャルディスタンスを保ちながら、気の合った利用者同士がテーブルを囲んだり、一人になりたい時には廊下のソファも利用できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、自宅で使っていた物、馴染みのある物や、家族の写真等を飾っていただき、利用者にとって自宅で過ごしているような雰囲気となるよう努めている。	居室は、入居時に利用者や家族等と相談し、使い慣れた家具や調度品、写真等を持ち込んでもらっている。自宅のような環境を整え、利用者が安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、手すりも付いている。環境面で問題が生じた時は職員間で話し合い、安全かつ自立して生活していただけるように改善している。		